

令和 4 年度 年間授業計画

東京都立大泉高等学校 全日制課程

教科・科目 講座名	地歴・世界史B	単位数	2 単位	必修
対象学年・組	2年1組～5組			
担当教員	佐藤慎也			
教科書等	詳説世界史（山川出版社）最新世界史図表タペストリー（帝国書院）			

学習の目標	本格的に世界史を学習するのは高校からなので、基本的事項を丁寧に教え、生徒たちの世界史に対する興味・関心を高めることを目標とする。さらに、地理的条件や日本の歴史を関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養うことを目標とする。
-------	--

学期	単元(学習内容)	時間	学習上の留意点
1学期	① オリエント文明	24	古代の諸地域の文明の成立、特色、比較等を分かり易く解説する。地理的な学習も随所に取り入れる。中学校社会科の内容との連続性に配慮しながら、各古代文明の特色・比較等について生徒に調査・発表させるような主題学習も数回行って生徒に興味・関心を持たせるようにする。その際、各地域世界の人々の生活・宗教・意識などを具体的に把握できるようにし、政治史のみの学習にならないように留意する。
	② 地中海世界の展開		
	③ アメリカの古代文明		
	④ 西アジア世界の展開		
	⑤ 南アジア・東南アジア世界の展開		
	⑥ 東アジア世界の展開		
	⑦ 内陸アジア世界の展開		
2学期	⑧ イスラーム世界の形成と発展	28	イスラーム世界の発展や欧州諸国の海外進出とアジア諸国の繁栄・衰退等を絡めて分かり易く解説する。市民革命の意義等を的確に把握させる。生徒に馴染みの薄いイスラーム教やイスラーム世界等を理解させるために地理的分野も含めて主題学習を展開するようにする。また年表・地図その他の資料を積極的に活用したり、文化遺産・博物館・資料館の調査・見学を取り入れたりするなどして、具体的に学ばせるように工夫する。
	⑨ ヨーロッパ世界の形成と発展		
	⑩ 諸地域世界の交流		
	⑪ アジア諸地域の繁栄		
	⑫ 近代ヨーロッパの成立		
	⑬ ヨーロッパ主権国家体制の展開		
	⑭ 欧米における近代社会の成長		
⑮ 欧米における近代国民国家の発展			
3学期	⑯ アジア諸地域の動揺	18	欧米諸国による世界の植民地化と民族自立運動、冷戦と社会主義陣営の崩壊、世界の多元化等を最新の時事問題も絡めて解説する。近現代史の指導に当たっては、客観的かつ公正な資料に基づいて史実を理解させるようにする。さらに、地球世界の課題について考察させ、核兵器などの脅威に着目させ、戦争を防止し、平和で民主的な世界を実現させることが重要な課題であることを認識させる。
	⑰ 帝国主義とアジアの民族運動		
	⑱ 二つの世界大戦		
	⑲ 冷戦と第三世界の自立		
	⑳ 現代の世界		

評価の観点・方法	定期試験の成績のみならず、課題や提出物、授業態度などを総合的に勘案して評定を行う。
----------	---